

# 京都教区時報

京都教区広報委員会  
編集長 村上透磨  
京都市中京区  
河原町通三条上る  
TEL 075-211-3468  
FAX 075-211-4345  
kouhou@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

点訳版「京都教区時報」〈無料〉  
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。  
TEL・FAX 079-431-8601

2頁～3頁 家庭と婚姻 パートII 家庭における信仰伝達①  
青少年司牧の現場から 講師 北川大介師



2017年 司教年頭書簡 「主こそ、わが光」

## ユスト高山右近にならう 聖性への道のり

### 聖性への招き

教会憲章は、すべてのキリスト者に求められる聖性への召命について述べる中で(教会憲章39、42)、教会における聖性とは、信者の「それぞれの生き方をもって愛の完成を追求し、他の人々を育て上げる一人ひとりにおいて、さまざまな形をとって現われる」(同39)ものであり、聖性に達する手段は、「神

のために隣人を大切に「する愛」であると教え、そのひとつのかたちである殉教は「優れた賜物、愛の最大の証明」(同42)であると説明します。

わたしたちは、聖人たちが示す模範を自分の生活でそのまま模倣するのではなく、どのような時代と背景の中でその人が聖性への道しるべとなったのかを知り、そのあかしを普遍的な模範とするのです。いまわたしたちは、右近という一人の道しるべの前に立っているのです。

(年頭書簡より)



## 家庭と婚姻 パートⅡ

## 家庭における信仰伝達①

青少年司牧の現場から

講師 北川大介師

(サレジオ修道会)



福音宣教企画室では、2014年と2015年のシノドス(世界司教会議)において、家庭をめぐる問題が取り上げられたことを契機に、家庭の召命と使命を皆さんと一緒に考え、深めていきたいと思ひ、昨年度より婚姻と家庭に焦点を当てた講座を実施しています。

この問題について2015年度は、教会における婚姻の秘跡と家庭について、及び日本の現代社会の家庭を巡る問題について取り上げました。2016年度は、全2回の講座の中で、家庭において

どのように信仰を伝えていくか、という問題について考えました。

今回は北川大介師に、サレジオ会の創立者であるドン・ボスコ(聖ヨハネ・ボスコ 1815~1888)の霊性と四日市サレジオ志願院での青少年司牧の実践の紹介を通して、子供への信仰伝達において要となることについて話していただきました。

前半は、青少年司牧における信仰教育の在り方、そして信仰教育が目指している召命司牧における大切なポイントについてでした。少年から青年までの信仰を育むのに大切なこととして北川師が強調したのは、私たちとイエスとの日常的な関わりでした。青少年司牧はとりわけ若い時にイエスとの関わりを深め、はぐくみながら生きてゆけるよう助けることであるといひます。青少年司牧が目指しているのは、「福音を中心に据えた生き方」をすること。すなわちイエスを知り、受け入れた結果、自分を神と人に奉げて生き、イエスに従う生き方を選んでいくプロセスを援助すること。この意味で、司祭や修道者の召し出しについて考える

「召命司牧」は「青少年司牧の頂点」である、と北川師は指摘しました。

後半は、子供の信仰をはぐくむ指針(信仰教育において何を指すのか)、具体的にどのような人に育てたいのかを考えるヒントとして、サレジオ会の会憲に収められている教育司牧奉仕の重要な点及び、サレジオ修道会創立者であるドン・ボスコの残した霊性と伝統及び遺産を分かち合ってくださいました。ドン・ボスコは、青少年がイエスとの関わりを深めることを援助することにおいて、卓越した人だったといひます。

ドン・ボスコが具体的にどのように青少年と関わり、信仰養成・教育を実践し



ていたのか、またサレジオ会においてどのようなことが大切に受け継がれてきているのか、という点について分かち合ってくださいました。

北川師の講話の中で、印象的だったのは、共同体における青少年との「生の関わり」が信仰教育にとって最も大切な点であるということでした。上から教えるだけの教育や規律を課すことではなく、青少年と、兄弟として友人として共にいることが子供たちの信仰を育てていく上で欠かせないこと。つまり、青少年との親しみを通して信頼関係を築き、その信頼関係の中で、子供たちが愛されていることに気づき、信仰に目覚めていくことが、信仰教育の核心であるということ。そしてその信頼関係の中で、日々の実践を通して、子供たちが、生活の中に「神様がいる、イエス様がいる」ことを感じられるような環境づくりが大切であることを学びました。講話を通して、私たちが家庭において信仰をどのように伝えていくかを考える上でのたくさんのヒントを得ることができ、有意義な講演会となりました。

福音宣教企画室

## 2月のお知らせ

### 教 区

**聖書委員会** / Tel.075(211)3484 ㊦㊧  
**よく分かる聖書の学び**  
 日 時：15日㊦ 10:30  
 講 師：北村 善朗師 / 参加費：300円  
 会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

### 修 道 会

**聖ドミニコ女子修道会**  
**みことばを聴こう!**  
 日 時：11日㊦ 9:30~16:00  
 テーマ：二つの記憶 - ミサと聖書 -  
 場 所：聖ドミニコ女子修道会京都修道院  
 指 導：米田 彰男師(ドミニコ会)  
 対 象：青年男女 / 会費：500円(昼食代)  
 締切り：6日㊦(事前申込要)  
 申込み：Tel.075(231)2017 Fax.(222)2573

**ノートルダム教育修道女会**  
**女子青年黙想会<神のいつくしみを生きる>**  
 日 時：18日㊦ 15:00~19日㊦ 15:30  
 テーマ：罪と恵み  
 場 所：ノートルダム唐崎修道院  
 指 導：山内 十束師(御受難会)  
 対 象：独身女子青年信徒 / 費用：2,500円  
 締切り：12日㊦(事前申込要) Sr. 桂川  
 申込み：Tel.077(579)2884 Fax.(579)3804

### 諸 団 体

**京都カトリック混声合唱団**  
 練 習：5日㊦ 14:00 / 12日㊦ 14:00  
 25日㊦ 18:00 ミサ奉仕後  
 カトリック会館 6階

**コーロ・チェルステ(女声コーラス)**  
 練 習：9日㊦ 10:00 / 23日㊦ 10:00  
 カトリック会館 6階

**聴覚障がい者の会(どなたでも参加可)**  
**手話ミサと総会**  
 日 時：9日㊦ 11:00~14:00  
 場 所：河原町教会地下  
 参加費：700円(昼食代)  
 申込要：Tel・Fax.075(723)1135 傳(つとう) 裕子

**心のともしび** 番組案内  
 テレビ(衛星スカパー・ケーブル)スカイ A  
 毎週土曜日 朝 7:45  
 新シリーズ「私のキリスト道巡礼記」  
 出演は橋本 勲師(長崎教区)  
 ラジオ(KBS京都) ㊦~㊧ 朝 5:55  
 ㊦ 朝 5:15

2月のテーマ「自分らしく」  
 (高山右近列福に寄せて)

※ 4月号の原稿締切り日は2月22日㊦です。

## 大塚司教の

## 2月のスケジュール

Schedule of Bishop Otsuka



- 1日(水) 10:00 故 パウロ古屋司教命日  
衣笠墓参  
15:00 中央協 財務委員会
- 2日(木) 10:00 中央協 常任司教委員会  
15:30 日本カトリック神学院  
常任司教委員会
- 3日(金) 13:30 メリノール女学院 理事会
- 4日(土) 9:30 洛星高等学校 卒業式
- 7日(火) 12:00 ユスト高山右近 列福式  
(大阪城ホール)
- 8日(水) 10:00 ユスト高山右近 列福感謝ミサ  
(大阪教区 玉造教会)
- 9日(木) 10:00 ユスト高山右近 列福感謝ミサ  
(名古屋教区 金沢教会)

- 10日(金) 10:00 ユスト高山右近 列福感謝ミサ  
(東京教区 麹町教会)
- 12日(日) 10:30 ユスト高山右近 列福感謝ミサ  
(河原町教会)
- 14日(火) 14:00 福音宣教企画室 会議
- 17日(金) 11:00 聖家族幼稚園 聖堂訪問賛美式  
(河原町教会)
- 19日(日) 13:30 京都教区女子奉献生活者の会  
講話(河原町教会)
- 20日(月)-24日(金) 2017年度 定例司教総会  
(中央協)
- 26日(日) 14:00 故 溝部脩名誉司教 一年祭  
追悼ミサ(西陣教会)
- 27日(月) 14:00 司教顧問会・モデラートル  
合同会議
- 28日(火) 10:00 ノートルダム女学院高等学校  
卒業式

## 「YES 2016報告」

11月12日及び13日に、京都教区の青年の集まり「YES 2016」が、開催されました。「YES 2016」では、いつくしみの特別聖年の閉幕にあたり、「いつくしみ深く、御父のように」をテーマに、19歳から34歳までの約40名の青年



YES 2016

が、大塚司教様のご指導の下、「いつくしみ」について考え、分かち合いました。

12日は、西院教会で、大塚司教様からカラヴァッジョの絵画「マタイの召命」を題材としていつくしみに関する講話を頂いた後、今までにいつくしみを感じた瞬間について分かち合いました。そして、テゼの歌や交流会で、青年同士の、そして司教様や神父様方との交流を深めました。13日は、河原町教会に移動して「いつくしみの門」閉門ミサにあずかり、その中で青年の代表者5名が、前日の分かち合いの成果を会衆の皆さんに報告しました。

二日間のプログラムを通じて、いつくしみを我がこととして受け止められるようになりました。

YES 2016実行委員会

【青年センターHP】 携帯からでもご覧いただけます。 <http://www.kyoto.catholic.jp/seinen/>

青年センターあんでな